

## 令和4年度 日本赤十字社国際救援・開発協力要員集中英語研修 開催要項

### 1. 目的

国際赤十字の派遣要員として要求される、英語による総合的なコミュニケーション能力を習得することにより、実際の活動における円滑な業務の遂行を図る。

なお、本研修修了者は国際救援・開発協力要員基礎研修Ⅱ（IMPACT）もしくは保健医療 ERU 研修を受講し、近い将来の日本赤十字社派遣要員として登録されることを前提とする。

### 2. 目標

本研修終了までに、参加者は以下の能力を習得し、それを発揮できることを目指す。

なお、研修の基本指標として TOEIC を使用することとし、研修修了までに TOEIC スコア 730 以上の取得を目標とする。

- (1)英語を用いた協議及び協議内容の効果的なプレゼンテーション能力
- (2)国際赤十字の活動及び海外での業務に支障のない会話力及び書類読解能力
- (3)国際赤十字の標準的な履歴書、書式及び報告書等の作成能力
- (4)国際赤十字の活動に関する基本的な知識
- (5)国際赤十字の活動に従事する上で求められる環境適応能力および対人関係能力

### 3. 実施施設

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院

### 4. 研修スケジュール

令和4年10月3日（月）～12月2日（金）：2ヶ月間（9週間）

### 5. 研修内容

- (1)英語による基本的な会話、聴解、作文、文章読解
- (2)海外での業務や医療活動等で使用する英語表現及び書類読解
- (3)英語による協議及び協議内容のプレゼンテーション
- (4)国際赤十字のしくみ、活動に関する基礎知識

### 6. 研修生の選考・事前準備

#### (1) 研修生の推薦

赤十字の国際活動に従事する意思があり、TOEIC スコア 550 以上、730 未満の英語力を有する、職務経験 3 年以上の職員が管内にいる場合、以下①～⑤の必要書類を揃え、所属施設の担当者を通じ令和4年7月26日（火）までにメールにて研修実施施設に推薦願いたいこと（必要書類受領後は受領確認メールを配信いたします）。

#### 【必要書類】

- ①研修申込書（別紙1）
- ②履歴書（別紙2）

- ③小論文「国際救援・開発協力活動と私」（800字程度・word文書）
- ④英語レベルを証明する試験結果の写し（締切日より1年以内のTOEICスコア550以上730未満の証明書を1回分提出すること。スコアレポートがあることが望ましい）。
- ⑤インタビュー日程希望票（別紙3）

## (2) 研修生の選考

- 選考において、zoomでのインタビュー（日本語）を令和4年8月上旬に行う予定である。インタビューの詳細および日程については別途申込者に連絡する。
- ※英語力を測るためインタビューの一部を英語で行う予定である。なお、レベルチェックは研修前の英語力を測るためであり、その結果は研修生の選考過程では使用しない。
- ※研修参加の可否については、参加申し込みのあった者全員について所属施設担当者を通じ8月中に通知する予定である。

## 7. 研修生数

4～6名とする。

## 8. 費用負担

- (1) 授業料：国際医療救援事業交付金より充当
  - (2) 教材費・TOEIC-IP受験料：研修生自己負担
  - (3) 宿泊費・交通費・光熱費等：研修生所属支部・施設の判断に委ねる
- ※詳細については別途連絡する。
- ※宿泊施設については、各自で確保すること。
- ※教材費・宿泊費等、授業料以外の本研修参加にかかる費用は国際医療救援事業交付金の交付対象外であること。
- ※事前研修はzoomによるオンライン講義が含まれているため、各自でノートパソコン、Wi-Fi等の準備をすること。

## 9. 研修の評価

### (1) 研修運営の評価

研修期間中、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院国際医療救援部担当者が授業内容、研修生の満足度等に関する評価を研修生との面談を通して行い、研修運営にフィードバックする。研修終了時にアンケートおよび面談により評価を行う。

### (2) 研修成果の評価

- ① 研修期間中、定期的にTOEIC-IPを受験し、学習成果を評価する。
- ② 研修実施業者により研修前後に英語力を測るレベルチェックを個別に実施する。

## 10. その他

- (1) 研修生が4名に満たない場合、本研修会は開催されない。
- (2) 研修前に事前課題を課す。事前学習を終了しない場合、研修の参加資格を喪失する可能性がある。

- (3)研修開始後、研修生の受講態度、自己学習状況が不良であると認められる場合、研修の参加資格を途中で喪失する。
- (4)語学研修期間中に当院にて開催する国際医療救援関係の行事に参加することがある。
- (5)研修実施に際し、新型コロナウイルスの感染予防のため、リスクを分析し必要な対策を講じること。
- (6)今後の新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、中止または開催時期を再検討する可能性があること。
- (7) zoom によるオンライン講義時は一人一台デバイスを用意して接続すること。なお、より効果的に参加できるようパソコンからの接続を推奨すること。また、ウェブカメラを利用できること。

## 11. 問い合わせ先

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院  
国際医療救援部 担当 山田  
電話：052-832-5467（直通）  
Email：kokusaikyuen@nagoya2.jrc.or.jp